

ませんでしたが其代り使ふ時には随分思切つた使ひ方を致します、一例を挙げますれば何時かも兄弟二人で薔薇を買つて來ると云ふから二三十錢位買つて來る事と思つて居ましたら驚くぢや無いませんが一度に五圓も買つて來ました、而して夫れを何うするかと見て居ましたら二人で屋敷中に植ゑて了ひました、殊に私の部屋の前には立派なの許りを選んで澤山植ゑて呉れました其外オルスン、ピアノ、玉突きなど云ふ金目なもの許り買つて來ますが私は曾て一度も夫れを拒んだ事は無いません、要するに幼少時代から貯蓄思想を養つて置く事が肝要だらうと思ひます。

# 家庭の感化

江原素六氏談

國家に必要な事は、先づ之を學校に輸入せよと云ふ事は、全く眞理であります、明治三十三年十月三十日の教育勅語、更に四十一年十月十三日戊申

詔書を賜りまして我々國民を指導しさせ給ふ大御心は深く人民の感謝に堪へぬ所でありまして學校は云ふに及ばず、苟も學校に關係のあります種々の集會で、必ず教育勅語、詔書を捧讀するのは誠に其宜しきを得た途でありますが更に注意せねばならぬのは、學校で訓育せねばならぬものは、先づ家庭に入れると云ふ事で、何故かと申せば家庭はあらゆる人道の要素が備つて居る所でありまして、實地に於ける親子間の道德夫婦間兄弟間姉妹間親族間雇主と被雇者間の道德其他總ての社會的道德杯數へますれば、人道の問題一として備らぬものはありません夫れですから教育勅語戊申詔書の實を舉げるには、家庭訓育の力も併せて俟たねばならぬのです、爾うならば家庭の改善は眞に目眩の急務であつて、家庭の改良に力を用ひないで社會の改良を求めろのは全く木に縁て魚を求めると同じである云へる第何期の議會でしたか貴族院の一議員が時の文部大臣菊地大麓君に向つて帝國大學設立以來多くの卒業者を出したけれど未だ人才が出来ないかと云ふ質問に大臣は言下に答

へて大學は學術の蘊奥を究める所で人物を出す所  
 ではないと、では人物は何處から出ると云ふに  
 私には家庭から出るのであると思ふ、好い人物も  
 悪い人物も悉く皆家庭の感化に依らないものは  
 一人もないのであります、でありますから、家庭  
 の善悪は子孫の盛衰國家の消長に關するのであつ  
 て、家庭の善悪は個人と國家とに大關係を有する  
 ののである所謂家庭には種々の種類があつて普通は  
 夫婦親子兄弟の間が至極平和のものが多く中に  
 は夫婦共に品性の劣悪なものがあり、夫の品性が悪  
 くて妻の品性の好いものがある、或は夫には相應  
 の品性はあつても妻の頑冥なものもあるので何れも  
 其子女に大なる感化を與へるので、殊に妻の性  
 質が總ての事に及ぼす感化は、實に驚くべき偉大  
 な力を持つて居るので、何うして爾う云ふ事が  
 云へるかと云ふに、子供位模倣性の盛んなものは  
 ありません、生れて直ぐに親しむ所の母親に似る  
 のは當然であるばかりか、人類の記憶と云ふもの  
 は善を記憶するよりも惡を記憶する方が強いので  
 父親衆善の感化は母親の不徳の爲めに殆ど全く消

滅するものであります、母が家庭にある時は家庭  
 中の人心を引き眼目を引く磁石である母の行ひは  
 小兒が二六時中模範として之に倣ひ、生涯品行の  
 基となる、善良の母は一人の學校教師に値する  
 とはヘルバルトの云つた言葉であります  
 西洋の孔子だと稱された希臘のソクラテスの妻  
 サンチベは、夫に似ず性質が極めて頑冥で、其子  
 ランプロクレスに對しては母親らしい行ひがあり  
 ませんでしたが、屢々母親と衝突しました、其  
 都度ソクラテスが仲裁しては訓育した程です、  
 實に妻の不徳から起る災厄は埃及七年の飢饉より  
 も大きいと申した位で、ソロモンは辱をさらす婦  
 は、夫をして其骨に腐れあるが如くならしめ、智  
 恵ある婦は其家を立て恩かな婦は己れの手で之を  
 毀ち、忠實なる夫は爪を以て正しき貨を聚むるが  
 徳のない妻は箕で之を空しきに歸し、美しくしき婦  
 の懐みなきは金の鑲の豕の鼻にあるが如し、相争  
 ふ婦と俱に室に居らんよりは屋根の隅に居にしか  
 ず、争ひ怒る婦と偕に居らんよりは、野に居るが  
 好し、相争ふ婦と俱に居るは絶えず雨漏する室に

居るが如しと戒めてある婦徳の國家及び家庭に及ぼす事は誰でも知つて居らるゝ所であるが、彼のナポレオンとマダム、カムバンとの對話は、座右の銘として頗る價値がある、第一世ナポレオンが戦後國民教育の方針に苦慮して偶々マダム、カンバンに意見を問ひました時、カムバンは唯一言母なりと答へました、ナポレオンは深くこの言に感心して、此一語の内に教育の淵源悉く備はると歎賞しました、忠君愛國の精神も正直勤勉忍耐の諸徳も、政治家實業家の改善も、教育勅語、戊申詔書の實効も、賢い婦人の力を俟つて始めて成功するのであります、西洋で或る賢い婦人が三歳になる小兒を抱いて或る教師に向ひ、此子は最う三歳になりました、是れから何う教育したらば宜しかとの尋ねに教師は、是れまでが大切な教育時期であつたのを貴女は最も大切な教育の時期を失ひなすつたのですと云つたさうです總て小兒は五歳までに記憶する分量は六歳より十二歳まで小學校で得る所よりも多いと申します、私の友人の家に三歳なる女の子がありました、或る時其女の子

が襦を掛けてカツポレの眞似を致しますのを見て父親は乳母に向て何時活惚の踊を見せたかと申しますと、一度もお見せ申したとはありませぬでは何うして斯様な事をしましたかと云ふに、乳母は胸に手を置いて考へた末、昨年中御飯焚に雇はれた女が折々襦の儘で御嬢様の前で踊の眞似をして御喜ばせ申した事のあつたのを覚えて居られたのであらうと申しました、夫れから其子が翌年四歳になつて幼稚園へ往く事になつた、さうすると母親に向つて母さんこれから幼稚園で御三味線と踊の御稽古をするのですかと聞きました、是れも同じ飯焚が折々其子に向つて御嬢様が大きく御成り遊ばすと、御三味線と踊の御稽古を遊ばすので御座いますと云つた事を記憶して居たのであります二歳位で何んにも解らぬ様でも、覺束ない記憶が他日口が利け手足が動く様になると實現される事があると思えます

近頃孟買から來ました友人の談話に依りますと、御承知の通り同地には鵲哥と云ふ鳥が澤山居まして、籠の中で飼養するのは多くは卵を室内で母鳥

に解化せしめ未だ聲を出さない前に暗室で何遍となくお早うとか入らつしやいとか云ふ語を繰り返しく聞かせるので、愈々成長して聲を出す時に第一に囀り出す聲は此お早うと云ふ事である、して見るが子供が既に四五歳となりましたならば善悪共に其見聞する事を悉く記憶するのであります、ベスタロッヂ氏は其妻アンナシエルテスと共に、或る時ヤコブと云ふ子供を連れて散歩旁々不圖豚の屠場を見たのです、併し直ぐ立去つたのです、而して其翌朝ヤコブが平日よりも餘り静かでありましたから、母親は何心なくヤコブと呼んだ、處が、ヤコブが坊はヤコブでは有りません豚屠だと答へました、即ち新らしく眼に映じた事が翌朝になつて木の葉杯を豚に擬して餘念なく自分を屠豚場の主人となつた想像を運らして居たのです、是れに似た話しは殆んど枚擧する事が出来な位ですが私の友人で極く謹嚴な人が三歳になる男子を携へて或る勸工場へ參つて、何か玩弄品を買つて與らうとしました、すると子供は頻りに三味線を望みます、何う云ふ譯かと考へますと、其紳

士が宅を改築する時、約三ヶ月程借家をした事がありました、丁度其借家の向ふ側に藝人が居たので、子供は折々子守に負れて藝人の三味線を弾いて居るのを度々見た結果なのでした、これから見ましても孟母三遷のたとへに付て婦人方は眞面目に考ねばなりません、子供が他人又は近隣の事すら速かに眞似ると云ふならば、況して乳を呑む時分から常住座臥、目撃する母親の言行に感化されぬ筈はないのです、誠に家庭が子女に及ぼす勢力が如何に強いかを考へねばならぬ、而して其家庭教育の主權者は全く母親の責任ですから、婦人位家庭で大責任を持つた者はありませぬ、父親が賢くても母親が愚かであれば、十中八九其家庭は不規律不經濟で、其子女も亦不規律であり不勉強であります、夫れに反して父親に不充分な處があつても、母親が賢ければ其家庭は整頓して經濟的で、其子女も規律があつて勉強家であるのです、夫れですから妻を求め嫁を選ぶには、第一に其母親の智徳を知ると云ふ事が大切な順序であ

ります。維新前私の懇意にして居たる大工に權次郎と云ふ男がありました。律義一遍で、一錢一厘でも自分の主張から直段を減じませぬ、然も其價格が幾分か他の大工より高いのです、少し負ける。と云ふと顔色を變へて怒るのです。私が商賣人で精一杯に積つて是より安くは出来ないのを、素人の旦那が高い林と云ふのは間違ひですと云ふ、然し權次郎は正直で仕事親切で、一點でも手を抜かないと云ふ事は、誰も知つて居ましたから、少し高いとは知りながら、矢張り權次郎に仕事をさせて居りました。此權次郎に付て面白い事があります。

丁度安政の大地震のありました時、大小澤山の家が潰れましたのにも拘らず權次郎の建てた家はかりは、一軒も潰れませんでした。で權次郎の云ひますには、自分が如何程丁寧に仕事をしたいと思つても、其の使ふ職人が其の心がないては決して好い仕事は出来るものでありません、ですから私は弟子を雇ふにも私の妻に人選を頼むのです、私の妻は弟子になると云ふ男の母親の所へ參

りまして色々談話を試みると、其母親が正直か不正直か、乃至は柔和であるか、又は強情であるかい大底解ります。母親さへ正直さうな柔和らしい人であれば、其子は弟子にして間違ひはないと申しました。が、其時は思ふ事をと別に心にも留めなかつたのです。然し今日になつて考へると中々道理のある事に感心しました。幸ひ婦人が家庭に於ける自己勢力の價値を自覺したならば、是れ程愉快な事はありません。孔子が女子と小人は養ひ難しと云ひましたが、此難いと云ふ事は不可能と云ふ意味ではありません。でありますから誰でも自から心掛けさへすれば、この大なる愉快と大なる成功を奏する事が出来其心掛次第で婦人として此世に生れた事を眞に幸福と感ずる様になります。一家禍福の岐れる所は主婦たり妻たる者の才色の衰ふると衰へざるに依るものであります。普通の場合に於て婦人は才色の衰へ易いものであります。婦人たるものは大に考へねばなりません。ソクラテースの門人ゼネホンと云ふ人の友人イスマカスと云ふ若夫婦の物語は、主婦たるもの、

耳にして置いて有益だと思ひますから、爰に申上げましたやう、若夫婦は互に打解けて申しますには我等は及ばん限り正しく直なる道を以て舊き貨に新らしみを加へると云ふ事を理想としたいと云ひ或る時夫が妻に向つて、若し下女が病氣に掛つた時は氣の毒ながらお前に看護を任せねばならぬと云ひますと妻は若し斯る事あらば私は僥倖と思ひます私が熱心に親切に看護したならば、其下女は必らず私に馴れ親しむでありますやうと答へました夫曰く若し強情にして不器用な下女が來た時も、忍耐して貫はねばなりませんと云ふと妻は若し強情の女が來た時には慈愛を以て之を和らげ、不器用な者の來りし時は親切を以て之を訓育する事を寧ろ樂しむと致しますと云ひました、夫イスコヤカスは大に喜んで最後に希望を述べて云ふ様、凡そ世の中の最も快き樂しみは、二人とも老人に及んで汝が余より完全にして子が汝に従はん事である、然らば汝は老いて予の爲には益好き伴侶となり、子供には良き母となり、家には名譽ある妻君となる時である、美と善とは若盛りの時のみ

に限らず、徳と智とを修むるに依り、終身増進するものであると云ひました、切に望むのは智を増す事と徳を進める事に心を注がれん事でありませ

## 感情の教育

樂 天 子

吾人の精神現象を能く穿索して見ますと、その中に苦樂の伴つて居る所の或る現象があります、此の苦樂の伴つて居る所の現象が、即ち感情であります、而して此苦樂の伴つて居る所の精神現象は、人々の全生涯の大部分を支配する所のものでありますから、吾々教育者が兒童を教育するに當つて、其精神に於ける苦樂に關する状態に就ては、能く研究して、相當の教育を施さなければならぬことと思ひます、然るに現在智力に關する事柄に就ては、可なり研究も届き、又其結果より案出された方法に依つて夫々教授して居られますけれども、この感情に就ては、感情其の物の性質が智力